

伯耆大山北壁（弥山西陵・別山中央陵）～ACA山行～

【報告者】T田

【日時】2016年2月27日 【天候】曇り、雪、強風

【ルート】弥山尾根西稜

【参加者】T上（講師）・A屋（運営委員）O・K（1年）・
T田（2年）

《コースタイム》

南光河原駐車場（7：05）－元谷（8：30）－テント設営－元谷出発（10：00）
－弥山西稜取り付き（11：30）－弥山稜線（14：15）－元谷（15：45）

《報告》

26日夜福岡を出発し、南光河原駐車場に到着。早々に出発準備をして元谷を目指す。元谷でテント設営。湿り雪が降っており天気はいまいちだが弥山西稜へ向かう。取り付きまでは弥山沢沿いを詰めていく。T上講師が弥山沢トラバースではなく最初から東側尾根上のルートを取るよと言った後、隣の弥山沢で音もなく小雪崩が起こった。びっくりしたがT上講師の言った事が身にしみて理解できた。

（T上講師、T田）パーティと（A屋、O・K）パーティに分かれ登攀開始。

記録では全5ピッチ程あるようだが、ランニングコンテで長めにピッチを切り進むことになった。先行パーティが1組いたのでトレースはしっかり付いていた。

（1ピッチ目）リード：T上講師、A屋

T上講師が先行し登攀開始、最初は左側から巻いて登っていく。立ち木のルンゼに登攀中、ごく小規模ではあるが雪崩発生。今度は頭から雪を被ってしまった。

結構な高度感を感じる箇所もあったがフォローという事もあり落ち着いて登れた。

ランニングコンテなので長い登攀に感じた。傾斜が緩やかになった所（スタカットで行けば2ピッチ目くらい？）で1ピッチ目終了。

（2ピッチ目）リード：T田、O・K

雪山で初めてのリード。か弱そうな立ち木にランナーを取ってすぐ、わりと丈夫そうな立ち木があったのでまたランナーを取っていたら「取り過ぎー！」と下から声が聞こえた。支点の見極めは難しい。スタートから直登、ルートが左に周った所で身長ほどの雪壁が出てきた。雪が柔らかくアイゼンもバイルも蹴っても打っても全然決まらない。そこでかなりの時間を費やしてしまった。2ピッチ目終了あたりでは風も強くなってきた。

(3 ピッチ目)

ここからは傾斜も緩やかになるのでコンテに切り替え歩きだす。高度が上がり稜線に出ると風もますます強く、時折吹き飛ばされそうな突風に身体を屈めた。ホワイトアウトしており視界もゼロ。サングラスを装着する余裕もなく、眼を開けているのが精一杯だった。T 上講師から山頂だと言われるまで気付かなかったし、どこに進んでいかも全く分からなかった。山頂小屋を通過し、夏道を7合目辺りまで下ってやっと一息つきコンテを解除。数少ない雪山経験ではあるが、今までの中で一番の強風、地吹雪、ホワイトアウトであった。T 上講師がいなければ下山は難しかったかもしれない。貴重な経験となった。

【報 告 者】O・K

【日 時】2016年2月28日【天 候】晴れ 風速7m

【ル ー ト】別山尾根中央陵

【参 加 者】T 上講師、O・K(1年)、運営委員 A屋
T 田(2年)→左肩負傷のためテント待機

《コースタイム》

4:00 起床→7:00 元谷→別山中央稜登攀→11:50 頂上台地→行者尾根→12:40 元谷
(約4kmの行程)

《 報 告 》

前日の天気と打って変わって晴天。風も比較的なく快適な登山日和となり多くの登山者がみられた。

別山尾根ルートには、先行パーティー(3名)がいたが比較的スムーズに登れた。別山尾根は、T 上講師オールリードにより A屋さんと O・K が時間差で交互に登る感じになる。全部で6ピッチくらいあったと思う。



雪質は中がサクサク、表面に乗ってる雪が硬くなってるだけで、T上講師いわく、なかなか決まらないとのことでした。

実際に雪にいくらピッケルを打ち込んでも効かないので草付きの凍っているところや岩にピッケルを引っ掛けたり、ブッシュを掴みながら登る感じであった。核心部近くになると岩と氷のミックスとなり、壁もだんだんと前傾してきだした。

露出している岩も下向きな感じのものが多く、ピッケルも効かせ辛いところもあったように思うが、足場は比較的しっかりしていたと思う。



核心部を抜けてトラバースし肩へ出る。5 mくらいクライムダウンし吊り尾根へと進む。両側がスッパリ切れ落ちてるし、雪も締りがなくツボ足といえど気を抜けない感じだった。しかし、景色は最高に良い！



頂上台地に出てからは行者尾根にてテント場まで下りてくる。



テン場に戻ってからは、ビーコン講習をして頂きました。ビーコンを雪に

埋めて交互に探していく。実際に何分で掘り出せるかタイムも計測する。

難しいと思ったのは、ビーコンの埋まっている位置が反応を示している位置の真下でない場合（段差など

によって斜め方向にある場合）などがゾンデ付記をつてもヒットしにくかった。

《 感想 (O・K) 》

今回、失敗だったのがグローブをゴム手袋で登攀したことです。岩に手をかけても滑る。核心部では、足場はしっかりしていたが安定したホールドできずにテンションをかけてしまった。それと、次のピッチに移るまでの準備（確保の準備等）をもっと意識して少しでも時間短縮に努めたい。

登り上がったときの景色が最高に良かった。また来年も行きたいと思いました。

2月27日 弥山尾根 感想

初の大山が弥山尾根となりテンションがあがる。しかし、今まで経験してきた雪山とはだいぶ違い厳しさを思い知らされた。

先行パーティーがあったので基本トレースを辿っていただけであったが、山頂付近では強風が吹いて、思うように前進できなかった。予報では風速 20m くらいと言っていたのでそのくらいあったと思われる。気を抜くと身体を持って行かれそうだし、雪が顔に痛いくらい当たりまともに前を見れない。しかもホワイトアウトする。

T 上講師がいなかったら、絶対に下りて来れなかったと思う。

予報である程度分かっているのであれば、二～三手先までよんでいけるように努めたい。

《 感想 (A 屋) 》

今年の ACA 大山登攀は、貴重な経験と大きな充実感を得ることができた。初日の弥山尾根西陵は2年前とくらべて不安や困難さを感じることなく雪稜を登ることができた。一方で、主稜での風雪(予報では風速 22m/s)は、予想以上に厳しい状況で、荒天の遭難リスクを体験できた。よろめくほどの強風、目が開けられないほど強く顔に叩きつける地吹雪、空と地面の境目もわからないホワイトアウトなど、弥山山頂から小屋までの僅かな距離の移動ですら T 上講師の正確なナビゲーションがなければ厳しい

ものだった。このような状況下で地図やコンパスを出して確認する余裕はほとんど無かった。稜線手前で目出し帽の調整やゴーグルの装着などの準備行動が必要だった。

また、登攀中のアイゼンの脱落を経験した。急斜面に生える灌木にセルフを取り、ぶら下がりながら装着しなおすことができたものの、場所によっては立ち往生していたかも知れない。翌日の別山バットレスでは入念に靴底の氷を取りのぞいたうえでアイゼンを装着した。

翌日の別山バットレス中央稜は、好天となり全6ピッチ、オールフォローではあったが大きな困難もなく登ることができた。核心部のハング気味の凹角が気がかりであったが、想像とは異なりやや前傾した岩場でガバホールドや足一つ載せられるスタンスなどがあった。リードをしてくださった T 上講師が、ホールドの雪を払い落としてわかりやすくしておいてくれたらしい。講師の話では雪の付き方によって難易度が大きく変わるとのこと。別山ピークを超えた後、残置ロープを掴みながらクライムダウンし、吊尾根でロープを外して斜面を登り頂上台地にトップアウトした。実に爽快な瞬間だった。

所要時間は4時間弱でドキドキ・ワクワクする登攀だった。

《 感想 (T 田) 》

疲労困憊か寝違えたか、2日目の別山に参加できず残念だった。

だが1日目の悪天候での登攀経験はかなり貴重だった。バラクラバやサングラスの装備のタイミングなどいかに重要か考えさせられたし、悪天候に入ってしまったからは地図確認すら出来る状況ではなかった。強風は予想以上に体力を奪われた。

別山バットレスはまた挑戦したいし、この経験は今後の雪山に活かしていきたい。